

西胆振地域づくりビジョン

平成21年3月 西いぶり広域連合

目次

第1章 地域づくりビジョンの策定について

1. 地域を取り巻く時代の潮流・・・・・・・・・・ 1
2. 地域づくりビジョン策定の背景と目的・・・・・・・・ 2
3. ビジョンの特色・・・・・・・・・・ 3

第2章 西胆振地域の現状と課題・強み

1. 人口・・・・・・・・・・ 4
2. 財政状況・・・・・・・・・・ 6
3. 農業・・・・・・・・・・ 8
4. 水産業・・・・・・・・・・ 10
5. 製造業・・・・・・・・・・ 12
6. 商業・・・・・・・・・・ 14
7. 観光・・・・・・・・・・ 16
8. 医療・・・・・・・・・・ 18
9. 福祉・・・・・・・・・・ 20
10. 教育・・・・・・・・・・ 22
11. 西胆振の現状・・・・・・・・・・ 24

第3章 西胆振地域づくりビジョン

1. まちづくりの可能性・・・・・・・・・・ 25
2. 地域づくりビジョン
 - (1) 地域のイメージアップ・・・・・・・・・・ 26
 - (2) 産業連携・新産業の創出・・・・・・・・・・ 27
 - (3) 安全・安心のまちづくり・・・・・・・・・・ 28
 - (4) 広域観光の促進・・・・・・・・・・ 29
 - (5) 広域教育の促進・・・・・・・・・・ 30
 - (6) 移住・定住の促進・・・・・・・・・・ 31
 - (7) 行財政の効率化・・・・・・・・・・ 32
3. 地域づくりに向けて
 - (1) 地域づくりのかたち・・・・・・・・・・ 33
 - (2) 地域づくりに向けて・・・・・・・・・・ 34

1. 地域を取り巻く時代の潮流

人口減少と高齢社会

- わが国の総人口は、今後急速に減少することが見込まれており、国立社会保障・人口問題研究所の中位推計によれば、平成17年から平成47年までの30年間に人口は約13%減少すると予測されています。
- また、少子高齢化も急速に進行し、平成17年から平成47年までの30年間に、年少人口は約40%減少し、高齢者人口は約45%増加すると予測されています。
- 今後、地域生産力の低下、コミュニティ機能の低下、医療や福祉をはじめとするセーフティネット機能の低下、税収減少や社会保障費の増加など、社会構造の急激な変化が予測されます。

経済・雇用の停滞

- 北海道の経済・雇用情勢は、長期に渡り停滞が続いていますが、アメリカに端を発した経済不況などの影響を受け、今後、さらにその厳しさを増していくことが懸念されています。
- 経済の停滞と雇用の縮小は地方にも広がっており、今後は地域の特徴を活かした新たな雇用創出の取り組みが求められています。

地域主権型社会への移行

- 昨年まとめられた地方分権改革推進委員会の第一次・第二次勧告では、基礎自治体への権限移譲、自由度の拡大や義務付け・枠付けの見直しが求められるなど、基礎自治体には、今後大きな役割と責任が求められています。
- 昨年末には、定住自立圏構想推進要綱が策定されるなど、地域の主体的な判断による自治体形成が求められています。

2. 地域づくりビジョン策定の背景と目的

この西胆振地域づくりビジョンは、「西胆振は一つ」の考えのもと、西胆振地域（室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）の6つの市町の特性を活かしたまちづくりの可能性を示すことによって、地域の住民の皆さんが将来のまちの姿について考える契機となることを期待するものです。

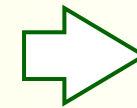
西胆振の状況

- ・西胆振の人口は、平成2年の23.3万人から平成20年には20.5万人と減少傾向にあり、今後も減少すると予測されています。
- ・西胆振の高齢化率は、平成20年時点で28.0%と、全国や北海道と比較して高くなっており、今後も上昇すると予測されています。
- ・西胆振の有効求人倍率は、道内では比較的高い水準にありますが、経済不況の影響から雇用縮小の動きもみられます。

+

策定の背景

- ・これまで開催された地域連携フォーラムにおいて、6つのまちの市長・町長の間で「将来、西胆振は一つ」という認識が共有されました。
- ・しかし、合併して間もないまちや合併協議が整わなかったまちなど、各まちが置かれている状況には違いがあります。



策定の目的

西胆振の将来の発展に繋がるまちづくりのあり方として、「西胆振は一つ」の考えのもと、6つの市町が一つになった場合のまちづくりの可能性を示し、地域の住民の皆さんが将来のまちの姿について考えることができる「西胆振地域づくりビジョン」を策定します。

3. ビジョンの特色

**6市町の強みを活かし、
地域全体が発展する可能性を示す**

- 全国的な合併・連携協議をみた場合、往々にして財政の立て直しを柱とした行政側の見方で議論されがちでした。このビジョンは、地域全体の発展や人々のくらしを主としたビジョンとします。
- 西胆振の6市町がそれぞれの強みを活かしながら、地域資源や人材・情報のネットワーク化を図り、これまで以上に地域内で人・もの・お金・情報が連携し、かつ循環して発展する可能性を示すビジョンを考えます。

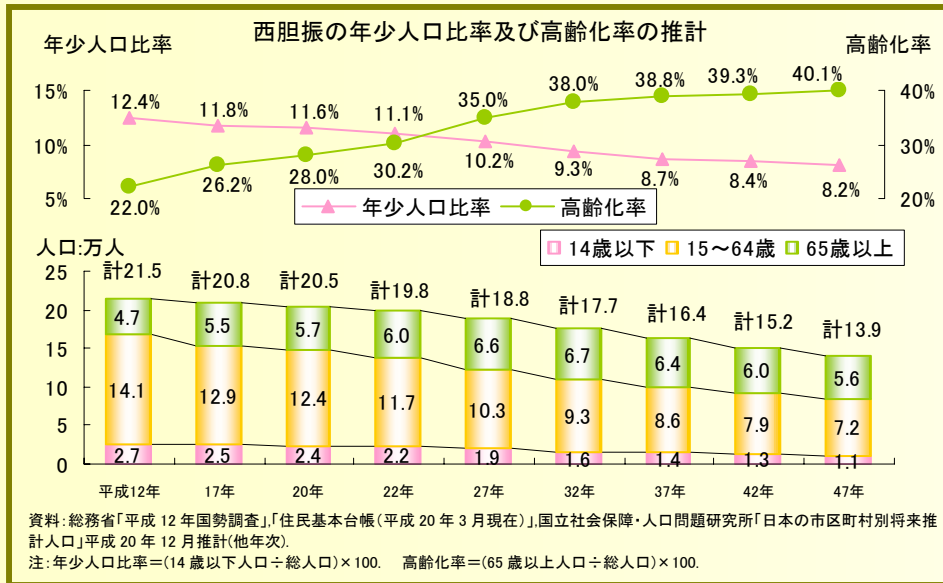
**地域の住民や関係団体の
意見を反映させたビジョンとする**

- 西胆振地域づくりビジョン懇談会、関係団体へのアンケート調査などを通して、地域住民の意見を反映させたビジョンとします。

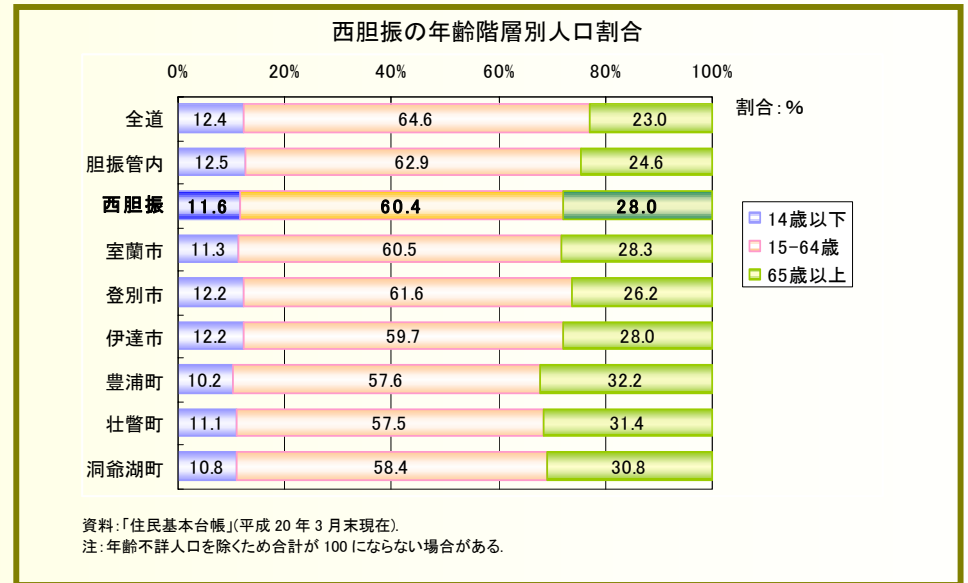
1. 人口

現状

■西胆振の人口は20万5千人(平成20年)で、今後も減少が見込まれる



■高齢化率は全道に比べ高く、今後も上昇が見込まれる



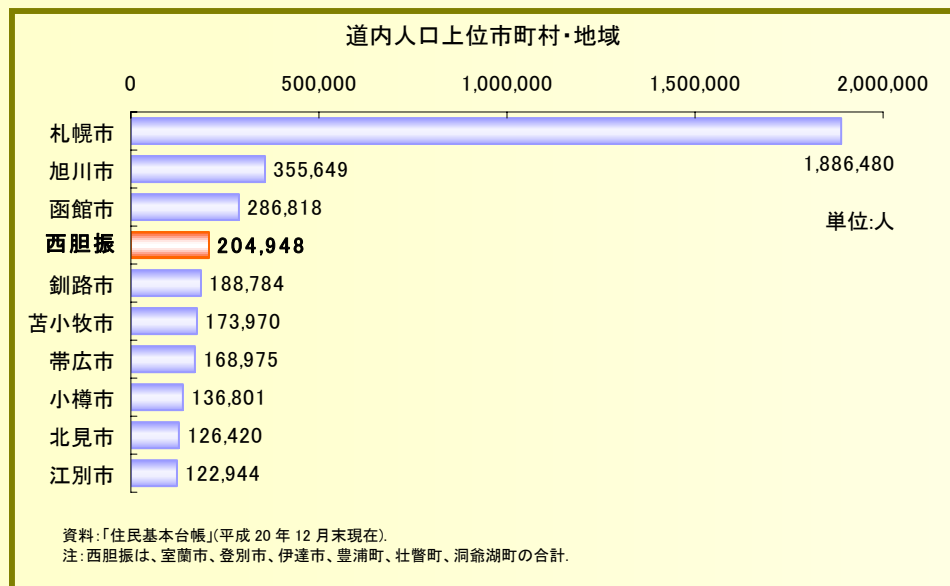
課題

- ・若者層をはじめとした社会的流出の抑制
- ・少子高齢化対策の推進
- ・団塊世代や現役世代の移住促進

1. 人口

強み

- 西胆振を一つと考えた場合、札幌市、旭川市、函館市に次ぐ全道4位の人口
(平成20年)



特徴的な取り組み

- 現役世代の誘致に向けた適職フェアを札幌市で開催 (室蘭市)
- 高齢者を対象とした新しい生活産業の創出によるまちづくりをめざすウェルシーランド構想・移住対策 (伊達市)
- 若年者の地元定着を目的として、3市・3商工会議所による高校生を対象とした企業見学会やミニ就労体験を実施 (室蘭市・登別市・伊達市)



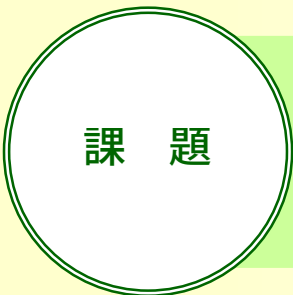
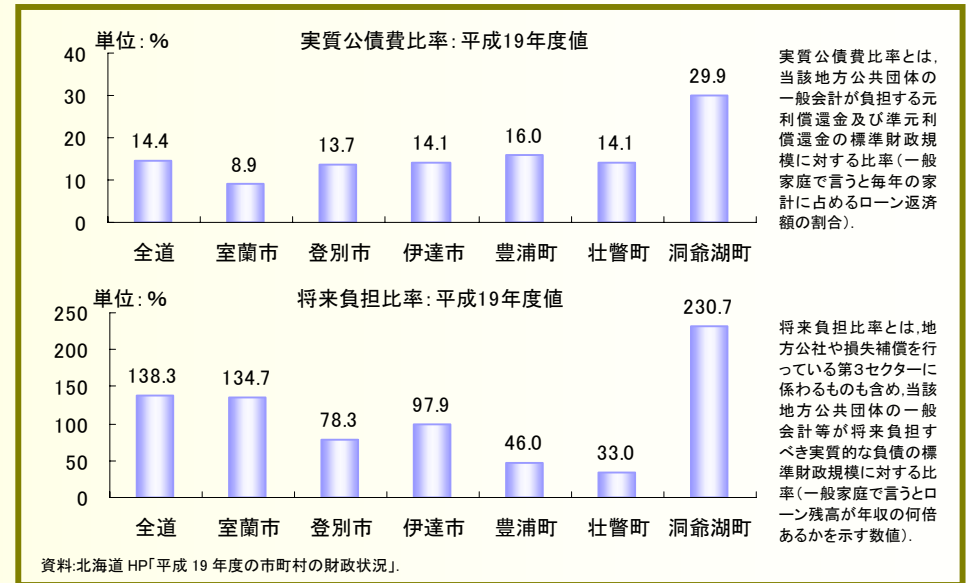
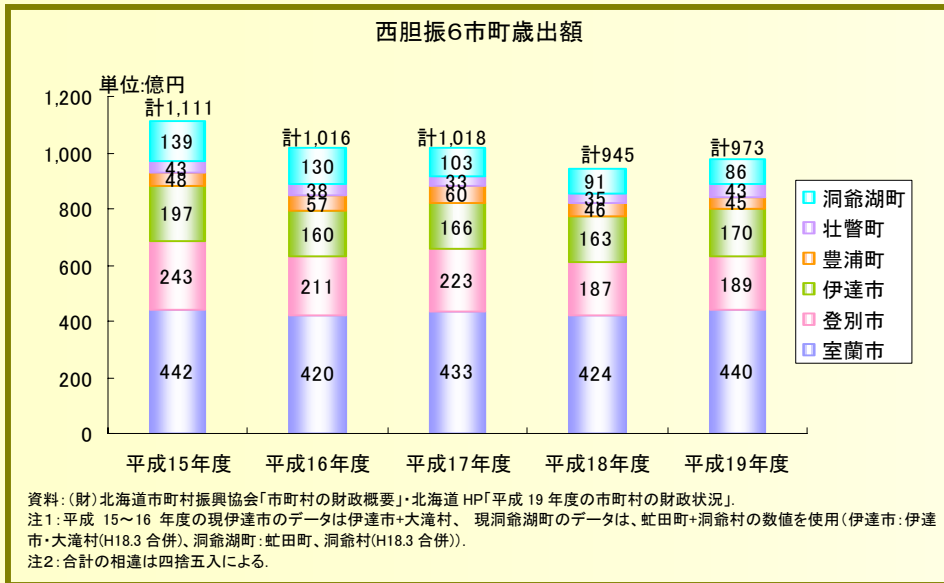
200人以上が来場した「適職フェア2008」 (室蘭市)

2. 財政状況

現 状

- 財政規模は縮小傾向
- 人口減少等による市町税収入の減少や、高齢化の進行による財政負担の増加が見込まれる

- 実質公債費比率や将来負担比率は地域によってばらつきがある



- 市町税など一般財源の確保
- 福祉関連など扶助費の増加

2. 財政状況

特徴的な取り組み

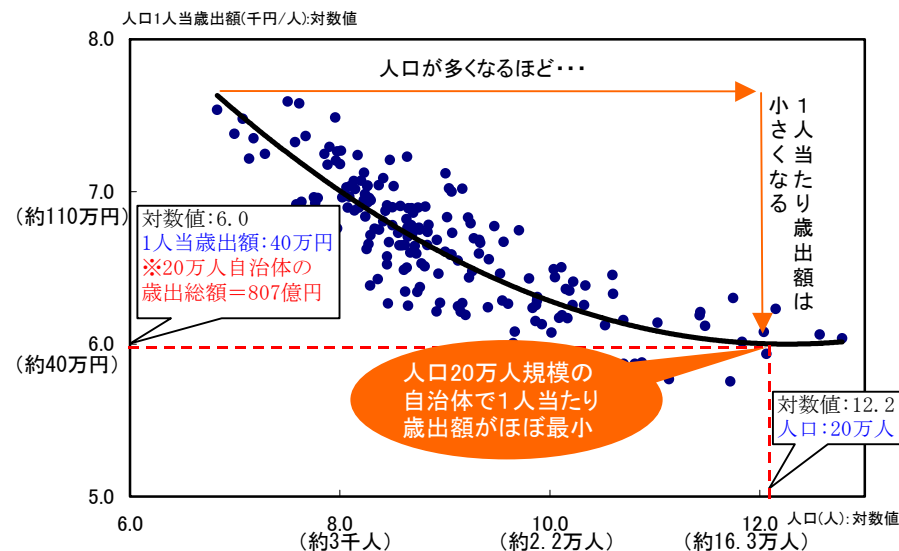
- ごみ処理施設やリサイクルプラザなどの建設・運営（室蘭市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）
- 住民記録や税などの電算処理の共同化（室蘭市、登別市、伊達市、壮瞥町）
- 図書館の蔵書検索や公共施設予約システムの構築・運用（室蘭市、伊達市）



西胆振地域廃棄物広域処理施設（メルトタワー21）

※参考：北海道の市町村のデータから、人口20万人の場合、1人当たり歳出額は40万円でありほぼ最小の費用となります。また、人口20万人自治体の歳出額は807億円と推計されます。

人口1人当たり歳出額と人口との関係

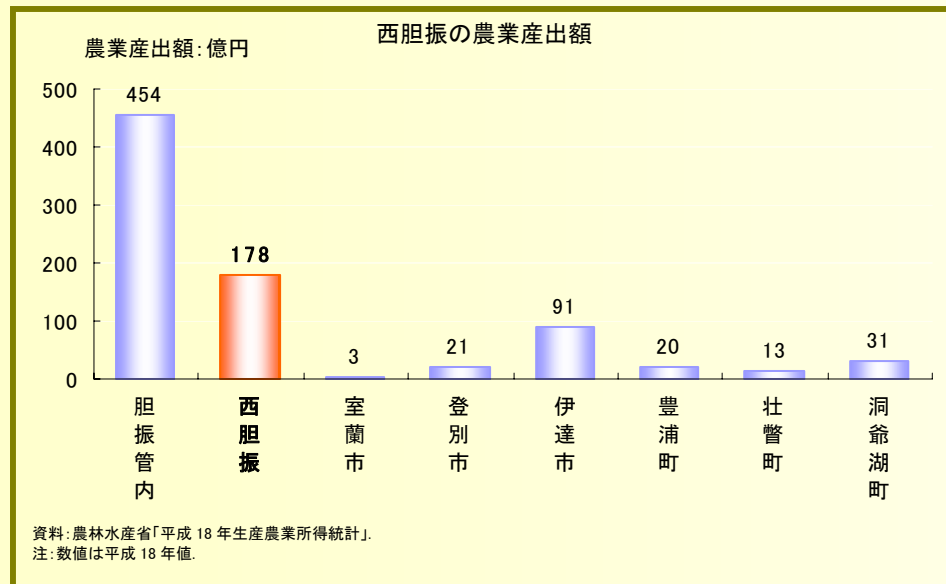


資料：北海道「平成19年度の市町村の財政状況」。
注：札幌市と夕張市を除く、北海道内178市町村の数値より(社)北海道未来総合研究所が推計。

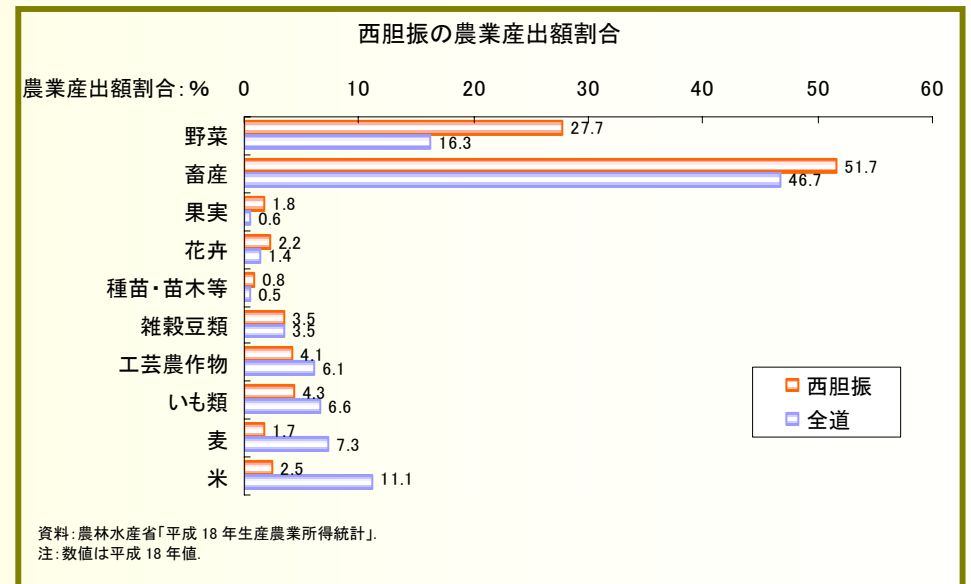
3. 農業

現状

■西胆振の農業産出額は178億円で、うち51%が伊達市



■全道と比較して野菜の割合が高い
■農業就業者の高齢化・後継者の不足



課題

- ・担い手の育成と確保・農業経営の安定化
- ・生産物の付加価値向上
- ・地産地消の取り組みの推進

3. 農業

強み

- 少雪温暖な気候
- 道内有数の野菜産地であり、高級菜豆等の畑作、りんご等の果樹、酪農・養豚・養鶏等の畜産も行われ、多種多様な農畜産物を生産
- 大消費地（札幌市）に近い地の利
- クリーン農業や循環型農業による安全・安心な農産物の生産
- 温泉地の熱源を農業生産に活用できる
- サミットで使われた食材としての知名度

道内でも有数の生産量と品質を誇る豚肉といちご（豊浦町）



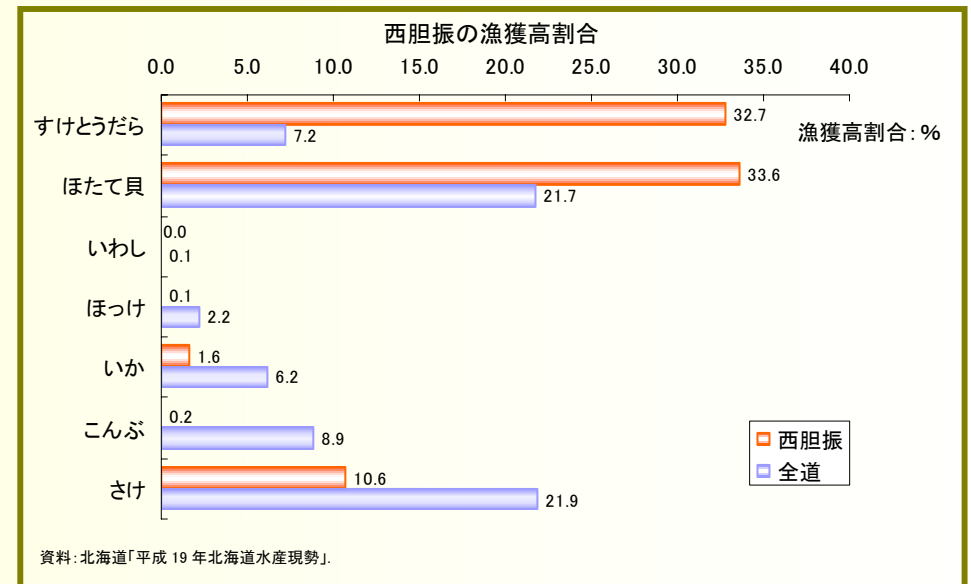
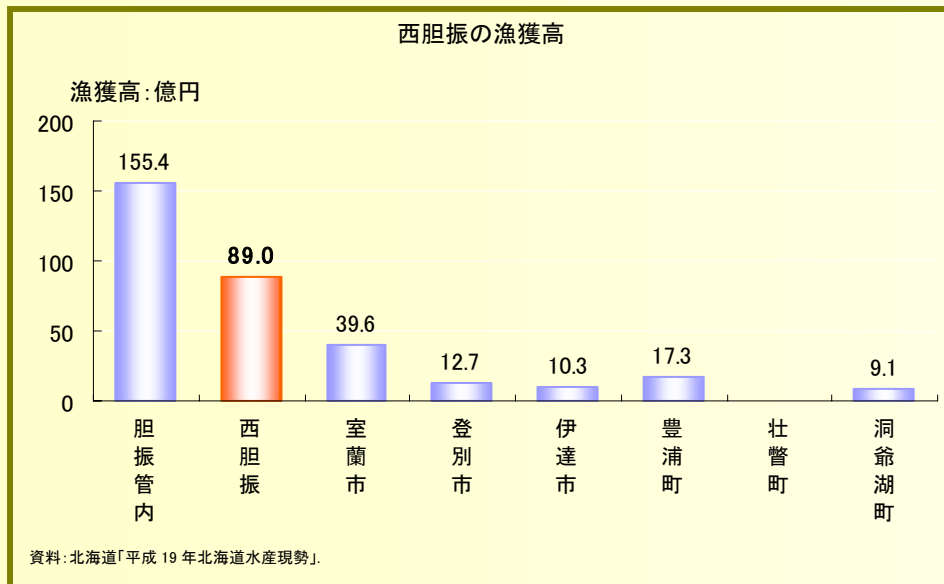
特徴的な取り組み

- 観光業と連携した農産物加工施設の運営（登別市）
- 木質ペレット活用や未利用資源の堆肥化による循環型農業（伊達市）
- 「食」をテーマに地域経済の活性化を図るウエルシーフード構想による6次産業化（伊達市）
- 豊浦いちごの地域ブランド化と耕畜連携農業の推進（豊浦町）
- 担い手育成支援制度の創設（壮瞥町）
- 観光と連携した果樹生産、直売機能の充実。土づくり、循環型社会の形成のため、たい肥センターを整備（壮瞥町）
- 雪蔵野菜貯蔵施設の建設とクリーン農業の推進（洞爺湖町）

4. 水産業

現 状

- 室蘭市が西胆振の漁獲高の4割を占め、魚種別ではすけとうだらとほたて貝で全体の約65%を占める
- 漁業就業者の高齢化・後継者の不足



課 題

- 漁業就業者の育成と確保
- 水産資源の維持や魚価の安定・向上に向けた取り組みの推進
- 地産地消の取り組みの推進

4. 水産業

強み

- 全国的にも有名なホタテの産地であり、マツカワのほか、クロソイ、ナマコなどブランド化に期待のかかる水産資源がある
- マツカワの資源拡大をめざす「えりも以西海域栽培漁業拠点センター」、栽培漁業技術開発の拠点である「道立栽培水産試験場」などの研究拠点がある



ブランド化が進むマツカワの稚魚放流の様子（伊達市）



全国的に知名度の高い噴火湾のホタテ（豊浦町）

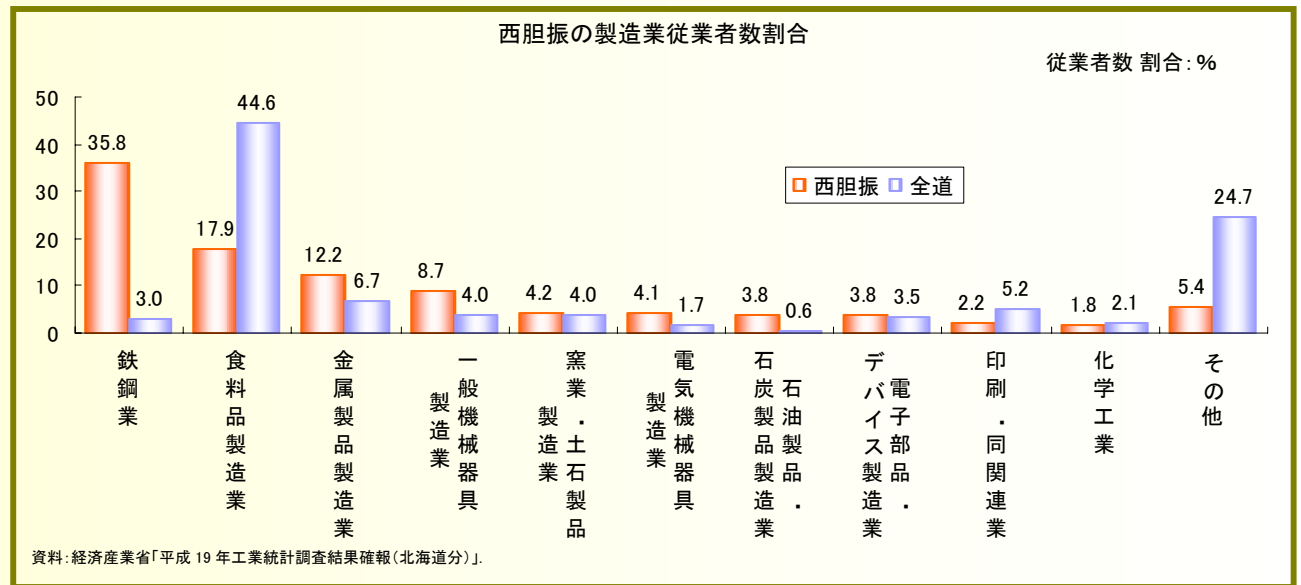
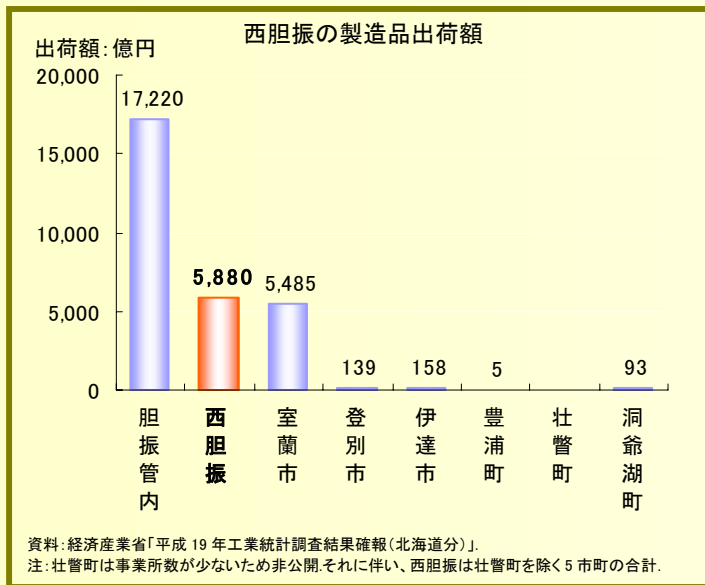
特徴的な取り組み

- 市の魚であるクロソイオーナー制度の実施（室蘭市）
- 水産物の安定供給体制の確立と水産業の健全な発展及び活力ある地域振興をめざす地域マリンビジョンの取り組み（室蘭市、登別市）
- 登別漁港産水産物のPRや観光との相乗効果を目指した直販等の実施（登別市）
- マツカワ栽培漁業推進事業・放流事業（伊達市）
- 東海大学との協定による温泉熱を利用したナマコ、ハタ、クエ、クロマグロなどの陸上養殖及び水産加工品の研究開発（豊浦町）
- ホタテ養殖の排出雑物の堆肥化と地元農家への還元（洞爺湖町）
- ナマコの増殖礁の造成と育成（洞爺湖町）

5. 製造業

現 状

- 鉄鋼業が大部分を占め、大規模事業所のウェイトが高く、道外や海外企業との取引が多い
- 地元農水産物を活用した食料品製造業も点在



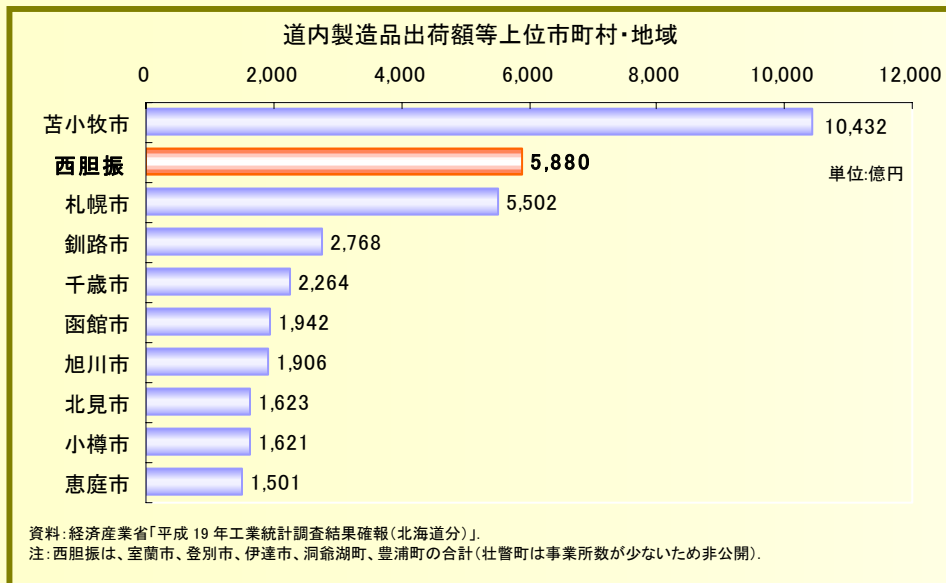
課 題

- ・ものづくり技術の継承
- ・地元異業種との連携促進
- ・中小企業の技術力向上を支援する仕組みの強化

5. 製造業

強み

- 苫小牧市に次ぐ全道2位の製造品出荷額
(平成19年)
- 食品加工業から鉄鋼業まで多様なものづくり企業がある
- 室蘭工業大学や室蘭テクノセンターなど
研究開発や人材育成の拠点がある



特徴的な取り組み

- PCB廃棄物処理事業や、廃プラスチック・副生硫黄等のリサイクル事業、風力・太陽光発電の導入、水素や新エネルギーの活用研究など環境産業拠点形成の推進
(室蘭市)
- 室蘭工業大学と地元企業との共同研究の活発化
(室蘭市)
- ウェルシーフード構想による食品開発
(伊達市)

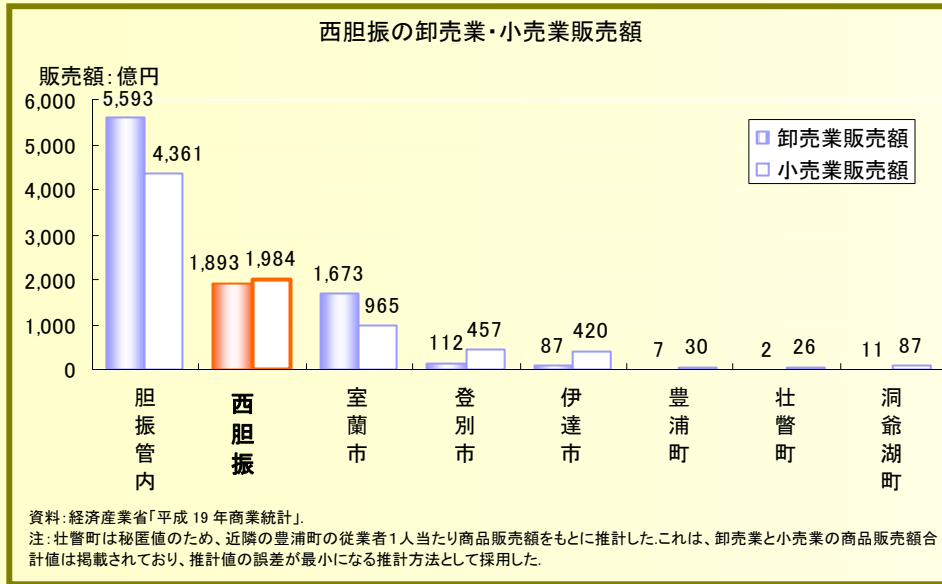


平成20年5月に操業を開始したPCB廃棄物処理施設(室蘭市)

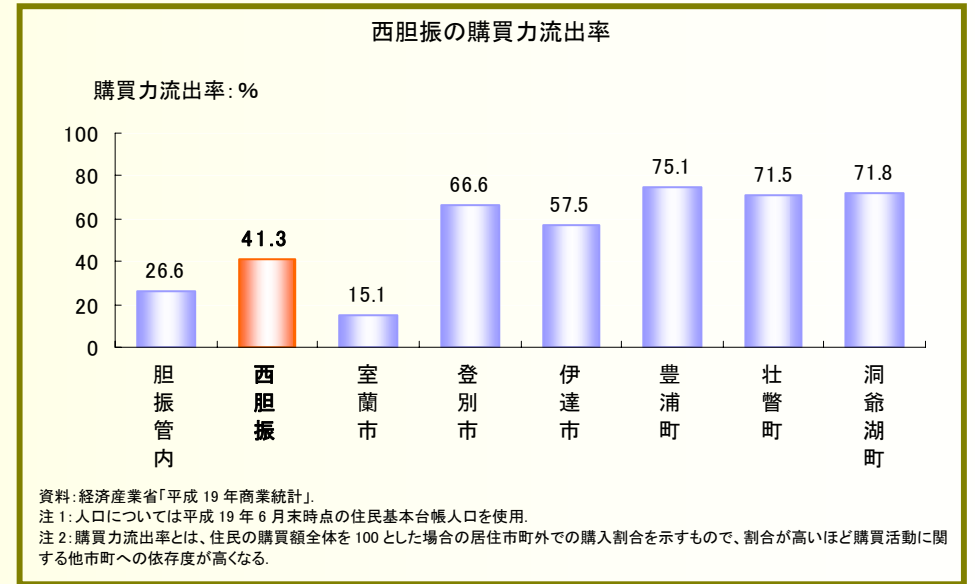
6. 商業

現 状

■卸売業販売額、小売業販売額は、室蘭市の占めるウェイトが大きく、特に卸売業販売額では約9割となっている



■室蘭市以外では購買力の流出率が高い



課 題

- 商店街の担い手の確保・育成
- 大型店と地元商店街の共存及び地域が一体となった集客対策
- 商店街におけるにぎわい再生

6. 商業

強み

- 地域をあげての購買運動のほか、商店街における地域課題に対応した事例が創出されている



市街中心部をつなぐ伊達物語回廊（伊達市）



買い物客で賑わう道の駅あぶた（洞爺湖町）



交流サロンでの健康講座の開催（室蘭市）

特徴的な取り組み

- 「買い物は地元で」むろらんバイ（買）地域運動の実施（室蘭市）
- 商店街による買い物無料循環バスの運行（室蘭市）
- 空き店舗を活用した交流サロンの設置（室蘭市）
- ウェルシーフード構想による地元産品の直売（伊達市）
- 道の駅併設の地場産品直売センターでの販売（洞爺湖町）

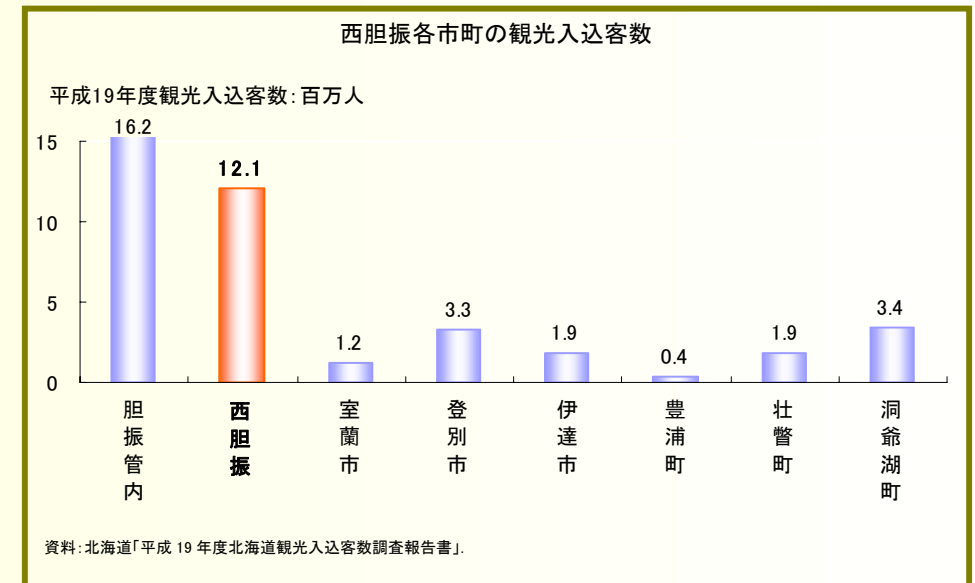
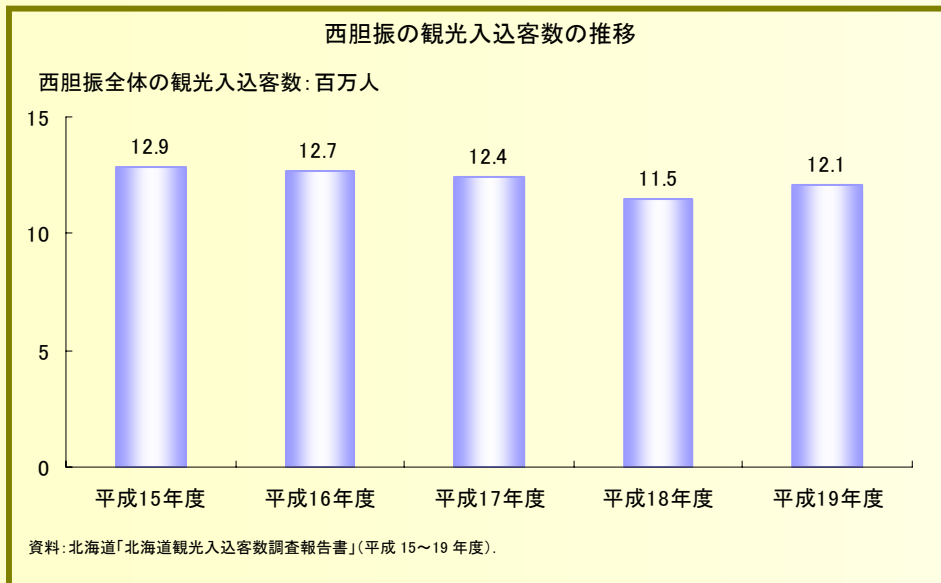


7. 観光

現 状

- 観光客入込数は漸減傾向にある
- 東アジアを中心とした外国人観光客が増加

- 団体から個人、周遊型から体験型、長期滞在志向など観光ニーズが変化



課 題

- 観光ニーズの変化に対応した観光資源・情報のネットワーク化の推進
- 観光と地場産業の連携促進

7. 観光

強み

- 西胆振を一つと考えた場合、市町村別で札幌市に次ぐ全道2位の観光入込客数
(平成19年度)
- 全国的にも有名な登別温泉、洞爺湖温泉がある
- 北海道洞爺湖サミットの開催により世界的に知名度が向上
- 温泉、自然(癒やし空間)、体験、イベントなど多様な観光資源がある



洞爺産業まつりの模様(洞爺湖町)



登別地獄まつりの模様(登別市)

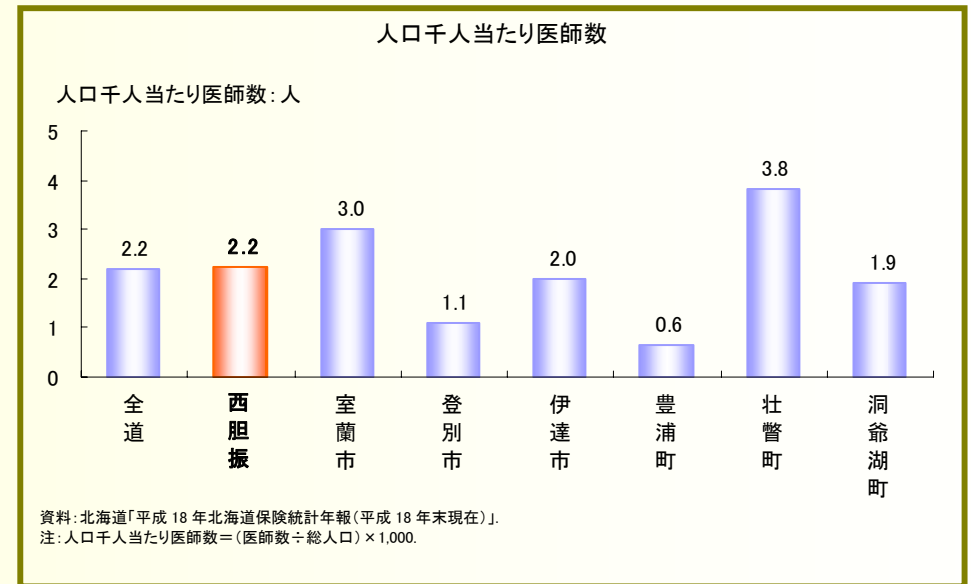
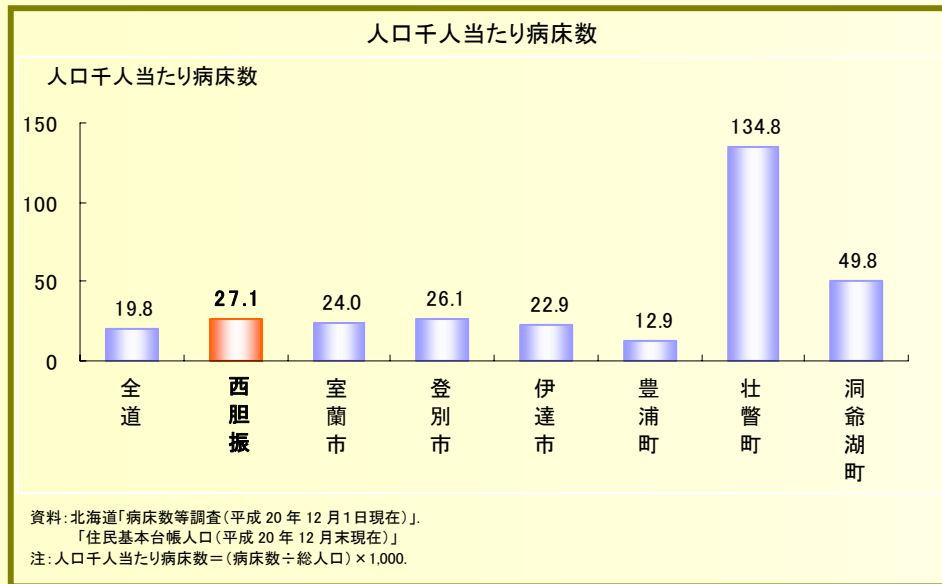
特徴的な取り組み

- 西いぶり戦略的観光推進協議会による首都圏での修学旅行プロモーションの実施
(白老町を含めた7市町)
- やきとり、カレーラーメンなどご当地グルメのPR(室蘭市)
- 日本有数の温泉郷・登別温泉での「登別地獄まつり」と「登別温泉湯まつり」の実施
(登別市)
- 史跡、遺跡、さらには開拓の歴史など特色ある資源を活かした観光事業の推進
(伊達市)
- 「食・体験・温泉」など健康(癒やし)観光の実施(洞爺湖町)
- 北海道遺産でもある昭和新山での国際雪合戦の実施(壮瞥町)
- 洞爺湖周辺地域エコミュージアムの推進と日本初の世界ジオパーク認定に向けた取り組み
(伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町)

8. 医療

現状

- 人口千人当たりの病床数は全道平均より多く、医師数は西胆振全体では全道平均並みであるが不足している地域もある
- 高齢者人口の増加に伴う医療需要の増加が見込まれる



課題

- 小児救急医療や周産期医療の確保
- 初期・二次医療機関の役割分担
- 医師が不足している地域での医療体制の確保

8. 医療

強み

- 高度で専門的な治療が可能な大規模病院が複数存在している



市立室蘭総合病院



伊達赤十字病院

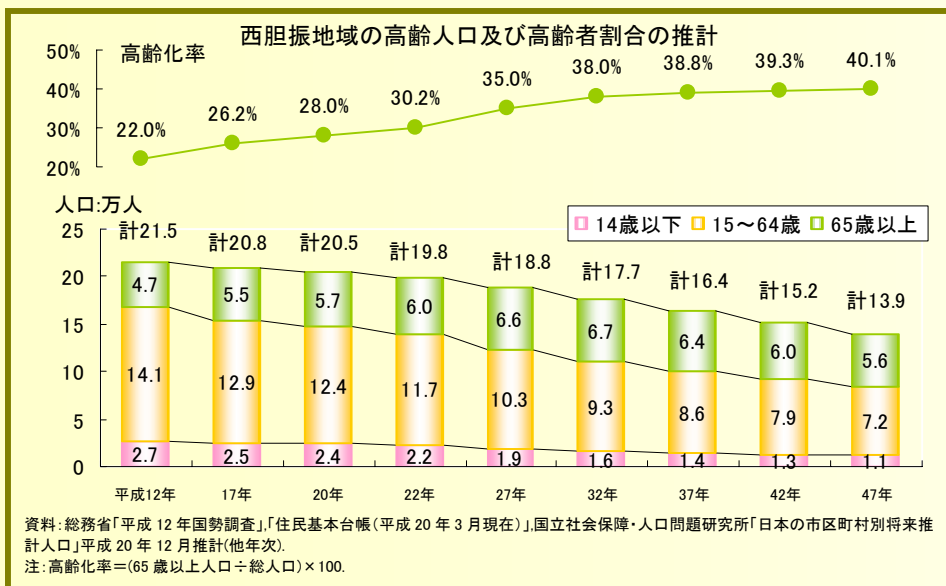
特徴的な取り組み

- 市立室蘭総合病院からの産婦人科医派遣等により、日鋼記念病院の産婦人科とNICU（新生児集中治療室）を有する地域周産期母子医療センターが再開（室蘭市）
- 行政、救急担当病院、消防などの関係機関が救急・周産期医療について話し合う西胆振医療圏関係者会議を設置（室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）

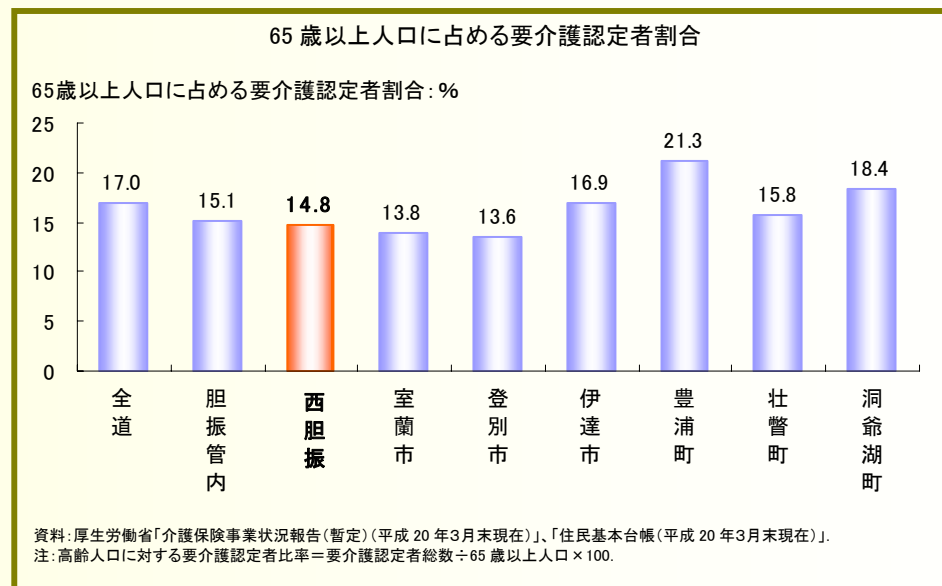
9. 福祉

現 状

■ 少子高齢化の進行により、少子化対策や高齢者福祉サービスへのニーズが高まっている



■ 高齢化の進行に伴い、介護を必要とする高齢者の増加が見込まれる



課 題

- ・ 少子化対策の推進
- ・ 高齢化の進行に対応した高齢者福祉の充実
- ・ 住民の地域福祉活動への参加促進

9. 福祉

強み

- 行政や関係機関・団体が連携して、障がい者や高齢者が地域で安心して暮らしたり、安心して子育てができる体制づくりや、その基盤となる施設整備が進んでいる



障がい者と健常者が一緒になって
取り組む地域イベントの様子
(伊達市)



保育・教育を一体的に行う幼保一元化施設
「コロポックルの森」(登別市)

特徴的な取り組み

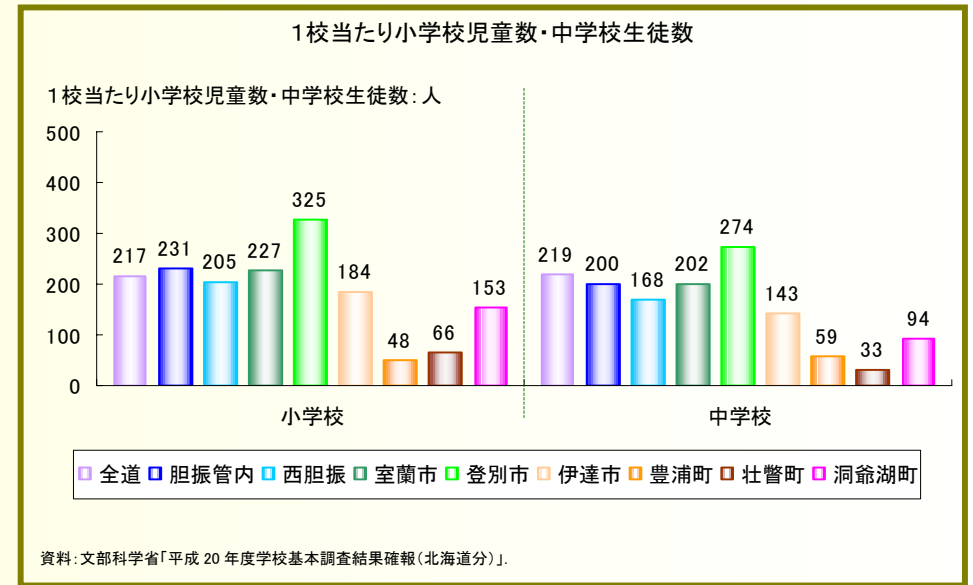
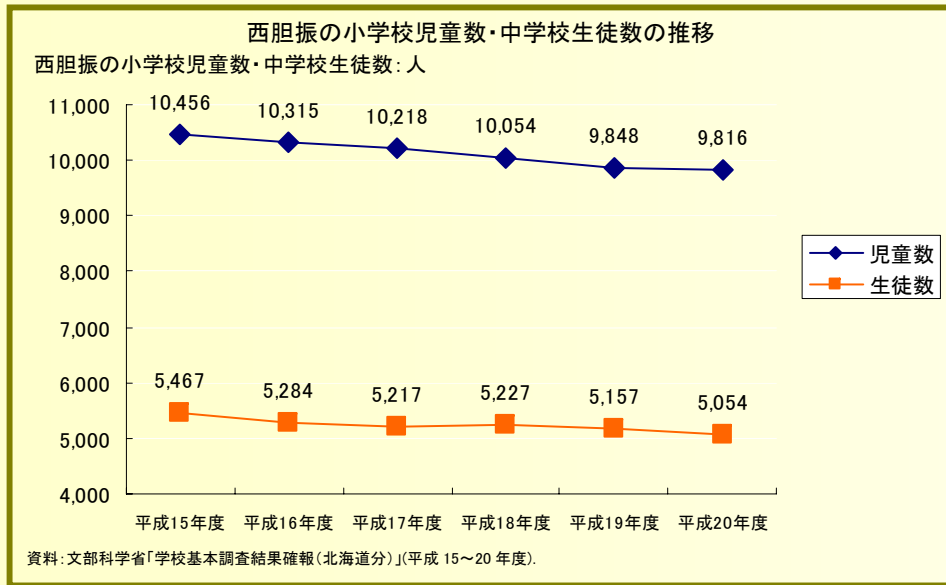
- 地域ぐるみで高齢者の異変察知や生活面などをサポートする「高齢者たすけ隊・見守り隊」の創設(室蘭市)
- オレンジネット(認知症高齢者見守り事業)の活動推進(室蘭市)
- 道内初のファミリーサポートセンターを設立、家庭と仕事の両立支援(登別市)
- 幼保一元化モデル事業で認定こども園創設に向けた取り組み(登別市)
- 高齢者や障がい者の暮らし、就労、社会参加を地域が支えるネットワークづくりの取り組み(伊達市)
- 札幌医科大学と連携した生活習慣病検診の継続実施(壮瞥町)
- おとなりヘルパーの養成(壮瞥町)

10. 教育

現 状

- 児童・生徒数は今後も減少が見込まれる
- 市部であっても、地域によっては児童・生徒数の減少により再編統合への対応を迫られている

- 1校当たりの児童・生徒数は、小学校では全道と同水準であるが、中学校ではやや少ない



課 題

- ・ 少子化の進行に伴う学校の再編
- ・ 子どもたちが地域を知り、誇りをもつためのふるさと教育の充実
- ・ 増加する高齢者層を意識した生涯学習基盤の整備

10. 教育

強み

- 小学校から大学までの教育環境がある
- 農林水産業、製造業、観光業など多様な地場産業の体験学習ができる
- 縄文遺跡群の存在
- 地球（ジオ）を学ぶ火山や地質遺産の存在



壮瞥町子ども郷土史講座－火山学習会－（壮瞥町）

特徴的な取り組み

- 小学校3・4年生を対象とした港・ふるさと体験学習の実施（室蘭市）
- 休日に子どもたちが楽しみながら様々な体験活動に取り組む「登別市子ども地域交流プラザ」の実施（登別市）
- 火山フィールドを活用した防災学習の継続開催による「減災人づくり」（壮瞥町）
- 北海道大学等、火山の専門家と連携した自然、火山防災を郷土史として学ぶ「子ども郷土史講座」（壮瞥町）
- 火山マイスター制度の導入（伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）
- すべての授業を芸術的体験を通じて行うシユタイナー教育の実施（豊浦町）
- 北黄金貝塚、入江・高砂貝塚を含む北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録へ向けた取り組み（伊達市・洞爺湖町）

11. 西胆振の現状

- 西胆振地域のまちはそれぞれが強みを持っています。
- 現状での地域の強みやそれぞれの拠点を表すと右のようになります。

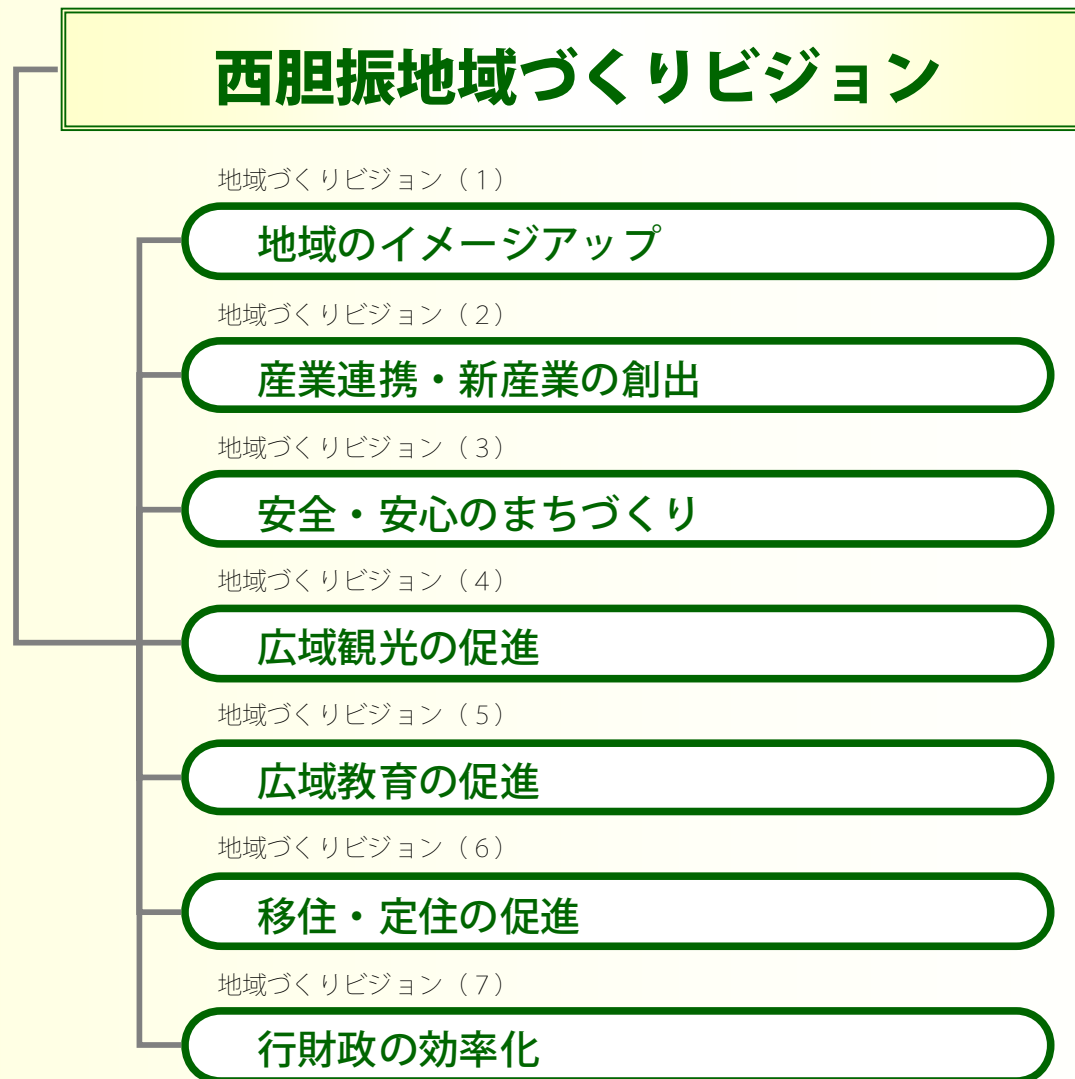


1. まちづくりの可能性

西胆振地域は、美しい自然環境を有しており、北海道洞爺湖サミット開催により世界に地域の情報が発信されました。また、美味しい野菜、果物、畜産物、噴火湾や太平洋でとれる水産物、道内でも有数の製造業の集積や世界的に有名な温泉観光地、住民の暮らしに欠かせない医療・福祉施設、高等教育・研究機関もあります。そして、それらの地域資源を活かし支えている多くの人材がいます。

西胆振が一つになることにより、地域資源や人材・情報のネットワーク化を通じて地域の総合力が高まり、これまで以上に地域内で人・もの・お金・情報が連携し、かつ循環することで、地域の課題が解決され、強みを活かしたまちづくりが可能となります。その結果、地域外にも西胆振の魅力が大きくPRされます。

地域の強みを活かし、西胆振が一つになることによるまちづくりの可能性について、7つのビジョンを示します。



2. 地域づくりビジョン（1）

地域のイメージアップ

西胆振地域は、3つの市を中心に道内では比較的大規模な人口、また美しい自然環境を有する地域であり、世界的にも有名な登別温泉・洞爺湖温泉には多くの観光客が訪れています。

また、伊達市・豊浦町・壮瞥町を中心とする農林水産業、室蘭市を中心とする製造業、登別市・洞爺湖町を中心とする観光業など、多様な産業が集積しています。

西胆振地域では、それぞれのまちが、特性や強みを活かしながら情報発信を進めています。各地域が連携してPRすることにより、知名度の向上とイメージアップが図られます。

まちづくり
の可能性

■20万人が暮らす地域としてPR

西胆振地域の総人口は20.5万人と道内4番目の人口規模であり、「20万人が暮らす地域」としてPRすることにより知名度が向上します。

■1,200万人が訪れる観光地域としてPR

西胆振地域の観光入込客数は1,210万人と、札幌市に次いで道内2番目の集客数となっており、「1,200万人が訪れる観光地域」としてPRすることにより知名度が向上します。

■環境先進地域としてPR

北海道洞爺湖サミットで世界に発信された美しい自然環境、工業地帯を中心に集積する企業・大学の環境技術、農業や水産業と連動した有機性廃棄物のリサイクルの取り組みなどを一体的にPRすることにより、「環境先進地域」として知名度が向上します。

■マルチ産業地域としてPR

西胆振地域には、1次～3次までの産業が集積しており、多様な雇用機会を提供できる「マルチ産業地域」としてPRすることにより知名度が向上します。



2. 地域づくりビジョン (2)

産業連携・新産業の創出

温暖な気候や豊かな自然に恵まれた西胆振地域には、野菜・果物・畜産等の農畜産物をはじめ、ホタテ等の豊富な水産物があります。また、道内でも有数の製造業集積地域であり、室蘭工業大学や室蘭テクノセンターなどの試験・研究機関もあります。

西胆振地域では、各まちの特色ある産業が連携することにより、新しい商品開発や消費の拡大が促進されます。

まちづくり
の可能性

■新エネルギー開発利用地域へ発展

木質ペレットや温泉排熱ヒートポンプ、雪蔵貯蔵施設などの取り組みと、室蘭の企業群の高い技術や室蘭工業大学・室蘭テクノセンターの研究開発機能などが結びつきを強めることで、新エネルギー開発利用地域として発展が期待されます。

■農商工連携の促進等による新産業の創出

西胆振地域の個性豊かな農業・水産業と、室蘭を中心としたものづくり産業が連携し、共同開発などの取り組みを強化することにより、農商工連携が促進され、新しい商品やサービスの開発が活発化します。

■農畜産物・水産物の情報発信

地域単位でブランド化が進められている、いちごや豚肉などの農畜産物、噴火湾や太平洋でとれる水産物を、国内有数の観光地である登別温泉や洞爺湖温泉などの情報発信力も活用して、国内外にPRすることで消費の拡大が図られます。

■地産地消の推進

西胆振の農水産物や加工品について、食育も視野に入れた学校給食等における活用や、登別温泉や洞爺湖温泉の宿泊施設での食材としての活用、西胆振の特産品を扱う直売所等の設置を進めることにより地産地消が推進されます。

例えば・・・

地域内で製造したペレットと、地域の製造技術を生かしたストーブを域内に普及し地域を活性化！



2. 地域づくりビジョン (3)

安全・安心のまちづくり

西胆振地域は、道内では比較的医療体制の整った地域ですが、医師の確保や救急医療の確保が懸念される地域もあり、地域内の病院間連携を深めることにより、生活を支える安定的な医療体制の推進が図られます。さらに介護など福祉の面でも、地域の関係機関が連携することにより人材確保が図られます。

また、西胆振地域には、周期的に噴火を繰り返してきた有珠山があり、過去に何度も大規模災害が発生していますが、このような災害時の避難対応などについて地域内の連携を深めることにより、地域で安心して暮らすことが可能となります。

まちづくり
の可能性

■安定的な医療体制の強化

西胆振地域に複数立地する総合病院を中心に、医師の確保・相互派遣、救急医療体制などにおける連携を図ることで、地域の安定的な医療体制の強化が図られます。

■安定的な福祉体制の強化

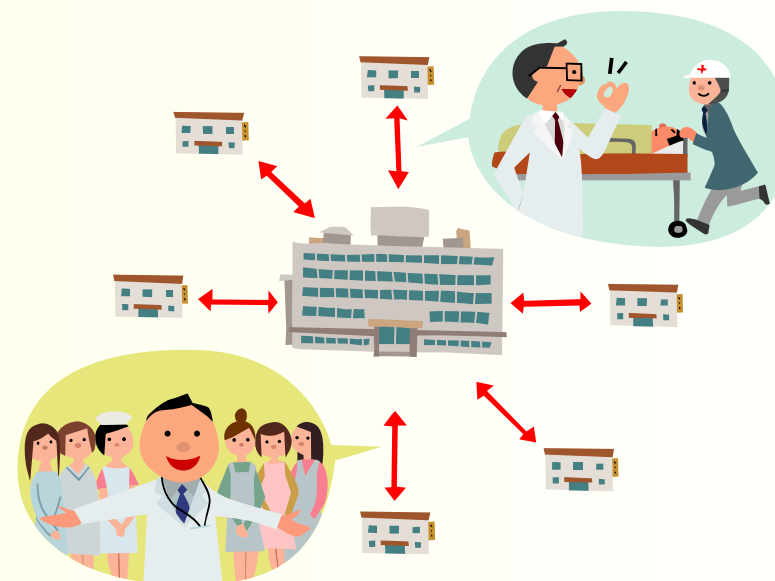
介護などを担う人材の不足に対して、福祉関係団体や専門学校との連携を進め、人材の養成・確保や相互派遣などを行うことで、地域の安定的な福祉体制の強化が図られます。

■大規模災害時の円滑な避難対応

有珠山噴火をはじめ大規模災害時における、生活物資の供給や避難場所の確保、仮設住宅の供給等において、西胆振地域の連携により迅速かつ円滑な避難対応が可能となります。

例えば・・・

総合病院を中心とした医療機関相互の連携により、
医療体制が強化！！



2. 地域づくりビジョン (4)

広域観光の促進

西胆振地域には、北海道洞爺湖サミットの開催でPRされた美しい自然環境、有珠山や昭和火山などの活火山、世界的にも有名な登別温泉・洞爺湖温泉、美味しい野菜、果物、畜産物、噴火湾や太平洋でとれる水産物、国内でも有数の製造業、四季を通じた多様なイベントがあります。

このような観光資源のネットワーク強化を進めると同時に、地域観光全体の視点で観光人材の育成や戦略的なプロモーションを展開することにより、観光客のさらなる誘致と観光産業の活性化が図られます。

まちづくり
の可能性

■多様な体験型観光プログラムの提供

西胆振地域の特性を活かした農業体験、漁業体験、自然や火山防災体験、ものづくり体験など、多様な体験プログラムの提供を行うことにより、体験型観光を志向する修学旅行・観光客の誘致促進が図られます。

■地域観光スペシャリストの育成

高いホスピタリティや、地域の文化・歴史等に精通した観光スペシャリストを戦略的に育成し、地域全域に配置することにより、国内外の観光客の満足度向上とリピーターの獲得が図られます。

■地域の関係団体の連携推進

北海道洞爺湖サミット開催時における地域関係団体の連携実績を活かし、地域や観光情報の共有化、地域全体のプロモーション、観光戦略の構築などを行うことにより、持続的な観光産業の発展が可能となります。

例えば・・・

多彩な体験型観光プログラムの提供により、
観光客が増加、満足度も向上！！



2. 地域づくりビジョン (5)

広域教育の促進

西胆振地域には、多様な自然環境や1次～3次までの産業が揃っており、それぞれのまちにおいて特色を活かしたふるさと学習や職業体験等が行われていますが、各まちが連携することで、多様な地域特性や職業を知る教育活動が可能となります。

また、西胆振地域には、専門学科や系列を有する高校や室蘭工業大学など、幅広い人材育成が可能な教育機関があり、地域が連携することで、教育機関の維持や特色ある専門教育の展開が図られます。

まちづくり
の可能性

■小中学生等を対象とした幅広い体験学習

西胆振地域の多様な産業を活かし、農業、漁業、製造業、観光業などの体験をはじめ、自然や火山防災体験など、小中学生等を対象とした幅広い体験学習が可能となります。

■大学等と連携した総合教育の推進

大学等と連携した出前授業や総合的な学習時間等の効果的な活用により、西胆振地域において先進的な総合教育の展開が可能となります。

■1次～3次産業の幅広い人材育成

農業、工業、商業など、専門課程を有する西胆振地域の高校と小中学校との交流を図ることで、身近な学校としての親近感が高まり、1次～3次産業に関わる幅広い人材育成が可能となります。

■地域内の交流機会の創出

小学校等で学習する地域固有の歴史や文化について、西胆振地域全体で学習交流する機会を創出することで、相互理解を深めることができます。

例えば・・・

多彩な体験型観光プログラムを、地域特性や職業を知る教育活動に活用！！



2. 地域づくりビジョン (6)

移住・定住の促進

西胆振地域では、伊達市をはじめ各まちにおいて移住促進の取り組みが行われていますが、西胆振地域の様々な魅力をネットワーク化しPRすることで、首都圏などからの季節居住者や退職世代の移住希望者の多様なニーズに応えることが可能となり、移住促進が図られます。

また、現役世代の移住希望者については、住まい、就労の場、子どもの教育の場などをセットで提供することが重要です。西胆振地域が一体となって、住まい、就労の場、子どもの教育の場などをセットで提供することで、安心して移住してもらえるだけでなく、福祉や農業など人材が不足している分野で活躍してもらうことが可能となります。

まちづくり
の可能性

■ 季節移住の促進

西胆振地域の特性を活かした、体験・観光・スポーツ等の幅広い滞在プログラムの提供により、季節居住志向の高まりに対応した交流人口の増加が図られます。

■ 退職世代の移住促進

西胆振地域の豊かな自然環境や、観光資源、都市機能、雪の少なさなど、総合的な暮らしやすさをPRすることで、退職世代の移住促進が図られます。

■ 現役世代の移住促進

西胆振地域の豊かな自然や快適な住環境が気に入って移住を希望する現役世代の人々に対し、地域が連携して住まい、就労の場、子どもの教育の場などを提供する取り組みを推進することにより、現役世代の移住促進が図られます。



季節移住

退職世代
の移住

現役世代
の移住

それぞれのライフスタイルに応じた
多様な居住環境の提案が可能

2. 地域づくりビジョン (7)

行財政の効率化

地方分権改革の進展により、住民に身近な市・町の役割や責任が大きくなりますが、住民ニーズを的確に捉え、自立した地域経営を行うためには、行財政基盤の確立が必要です。

西胆振地域では、平成の合併により8市町村が6市町になるなど、市町村の再編が進み、また、これまでも西いぶり広域連合によるごみ処理や共同電算事務をはじめ、様々な分野で広域連携を進めてきました。

今後も連携して事業を進めることで、行財政の効率化が図られ、住民に必要な行政サービスを安定的に提供できる体制の充実が可能となります。

まちづくり の可能性

様々な事務・事業について広域連携を進めることによって・・・

■効率的な職員配置

各市町における職員配置の見直しが可能となり、企画立案部門の強化や保健・福祉分野などでの専門性の向上、また税の徴収など適正な事務を執行するための体制の強化が図られます。

■行政サービスの広域化

事務の効率化に加え、スケールメリットを活かした事業の推進が可能となります。

- ・ 消防の広域化～救急救命士など専門職の育成強化や計画的な資機材整備が可能
- ・ 介護保険事業の広域化～賦課、給付事務の効率化や統一的な認定審査が可能

例えば・・・

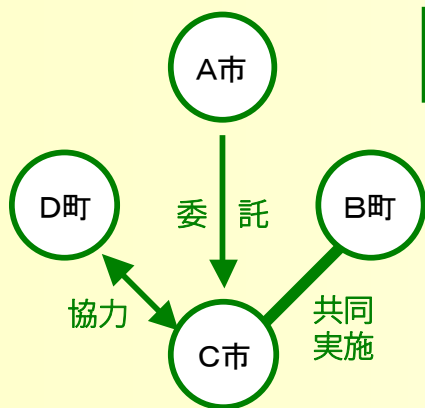
広域化による事務部門の効率化により、
救急救命士など専門職員の増強が可能に！！



3. 地域づくりに向けて（1）

地域づくりのかたち

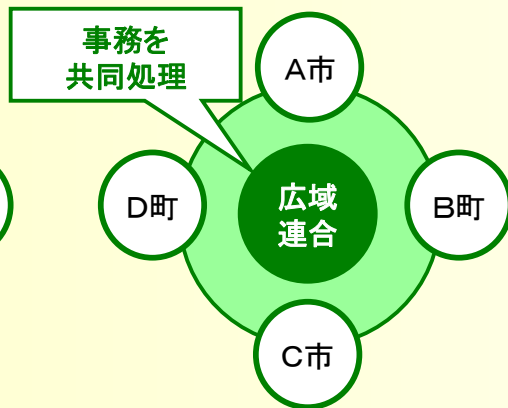
■西胆振地域が一つの地域として総合力を発揮するために、今後の連携のあり方を含めた新しいまちのかたちを考えることが大切です。まちのかたちとしては、今の市・町の枠組みを残しながら広域的な連携を図る「市町連携」、「広域連合」、「定住自立圏」のほかに「合併」など様々な方法があります。



市町連携

事務を市町間で協力したり、共同で行なったり、他の市町に委託する方法です。

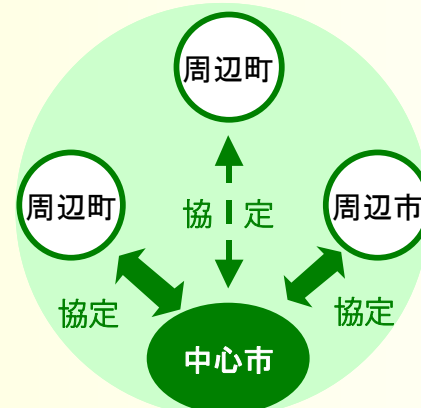
<例>
・豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町のし尿処理を伊達市が受託



広域連合

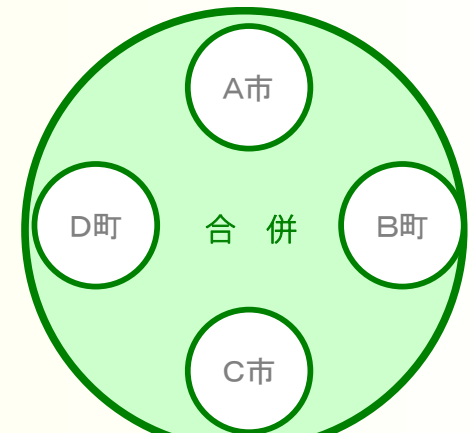
市・町とは独立した地方公共団体をつくって複数の事務を共同処理する方法です。権限移譲の受け皿となり広域連合長や議会議員を直接選挙できるなどの機能強化が法的に定められています。

<例>
・西いぶり広域連合がごみ処理や共同電算業務を実施



定住自立圏

中心市宣言を行なった中心市と周辺市町が協定を締結し、中心市の機能と周辺市町の機能が有機的に連携することで、定住のための暮らしに必要な諸機能を総体として確保する仕組みです。



合併

いくつかの市町が一緒になって新しい市町を作る仕組みで、行政の職員、財産、事務や議会など全ての分野を統合する方法です。

3. 地域づくりに向けて（2）

地域づくりに向けて

人口減少、少子高齢化、財政危機、地方分権など地域を取り巻く環境が変化していますが、私たちは、こうした変化に向き合い、地域づくりを進めていかなければなりません。

このビジョンにも示しましたが、西胆振地域にはたくさんの地域資源があり、それぞれの市や町は、多くの特性や強みを持っています。

この地域が発展するためには、それぞれの「まち」の強みを活かしながら、行政のみならず、各種団体や住民の皆さんの連携した取り組みが重要です。

今後は、このビジョンをもとに、西胆振地域の6つのまちの行政・住民の皆さんがともに話し合い協力しながら、地域の将来を考えていただき、様々なアイデアを具体化することで、西胆振地域の発展につなげていきたいと考えます。